

空と雪と、  
京都の路地は奥に深いです

itu





2月14日 京都は久々の大雪に見舞われました。

昨夜から降り始めた雪は、夜のうちに京都中を覆いました。  
夜が明けてもそれは降り続けたんですが、比較的気温が高かったのか、  
重く湿った雪で、積もりながらも融けて水になる、そんなふうでした。

これがもっとサラサラとした雪だったら、くるぶしの上ぐらいまで  
埋もれてしまったかもしれません。

およそ20年ぶりに、雪の銀閣を見ようと思いました。



銀閣へはバスで向かいます。

京都のバスは、銀閣のような有名な観光地は、複数の路線が経由する上に、それぞれが1時間あたり3、4本もあるので便利です。

ただ、どの路線に乗ればいいのか、どこから出ているのとか、路線により経由地が違ったりするので、事前に調べるか観光案内所で聞かないと、まごつくことになります。

「銀閣寺道」というバス停で降りました。  
運転手さん。ありがとうございました。



足あとがどんどん雪でカバーされていきます。



擬宝珠のような形に積もっています。  
万遍なく降っているんですけどね。どうして真ん中が盛り上がるんでしょうね。



春の桜並木が美しそうです。  
この疎水は哲学の道から続いています。



重そう。。。日本画によくありそうです。  
昔の人も、同じようなものを見て、感じていたんですね。



まるで餅花のよう。

もし、葉を落としていなかったら、雪の重みでことごとく折れていたかもしれません。

椿などは藪にある低木なので、あまり葉に雪が積もることがない。

そういう違いが有るような気がしました。



花の少ない季節に、南天の赤を見ると気持ちが浮き立ちます。  
京都で玄関先に植えてある家が多いのは、そのせいかもしれません。



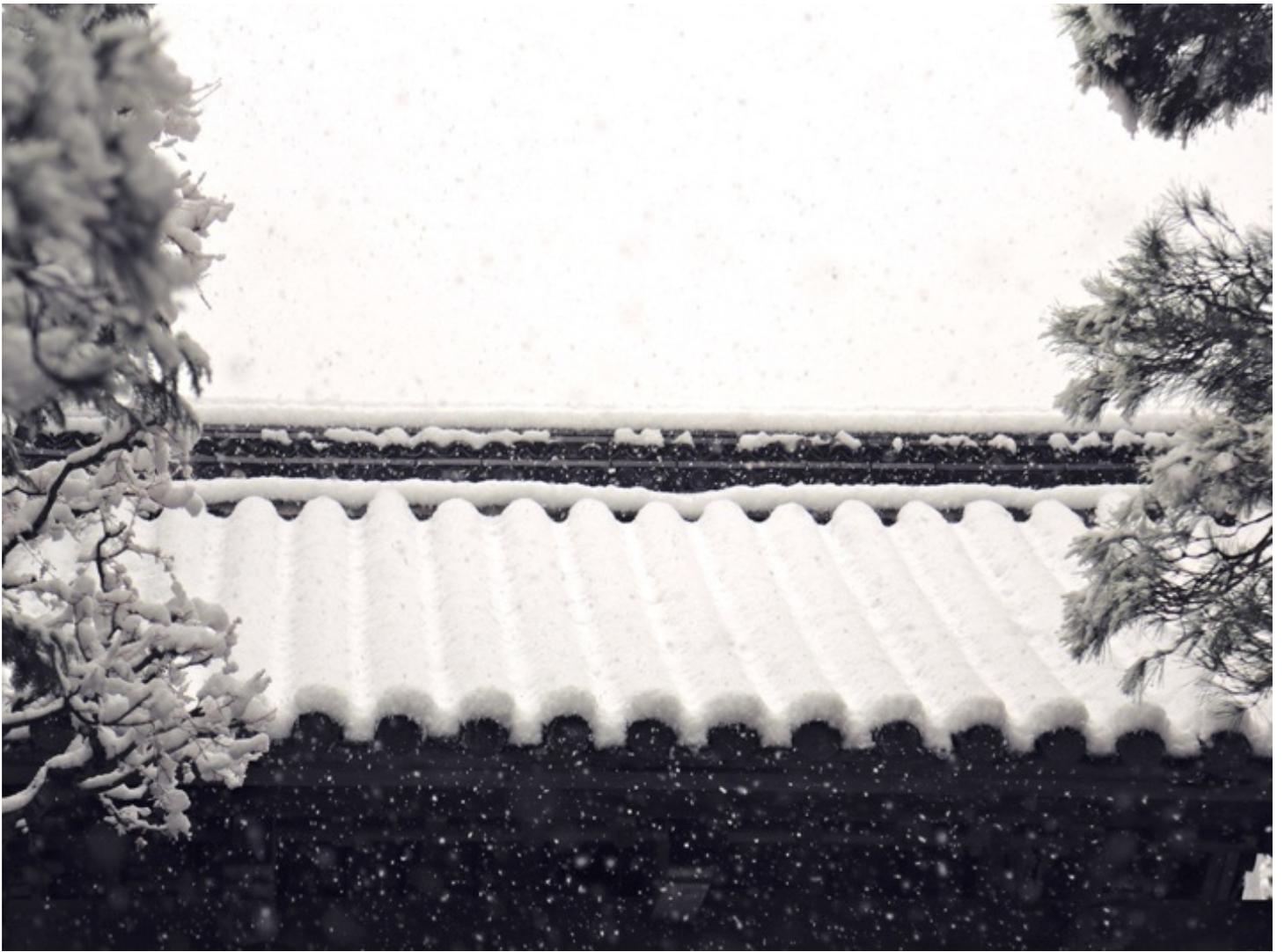
山門が見えてきました。

水墨画のような、枯れた風情にみえますが、  
ここまでの道のりは、どっかのテーマパークにでも来たような有り様です。

以前来た時は、そんなでは無かったのですが。



見てるだけで、お腹が痛くなりそう。  
可愛いを通り越して、不気味に見えてきました。



「蒲鉾」

いやいや、違う違う。

「一六タルト」

それも違うって。



「銀閣寺」という寺ではなくて「東山慈照寺」

ついでですが「金閣寺」ではなくて「鹿苑寺」

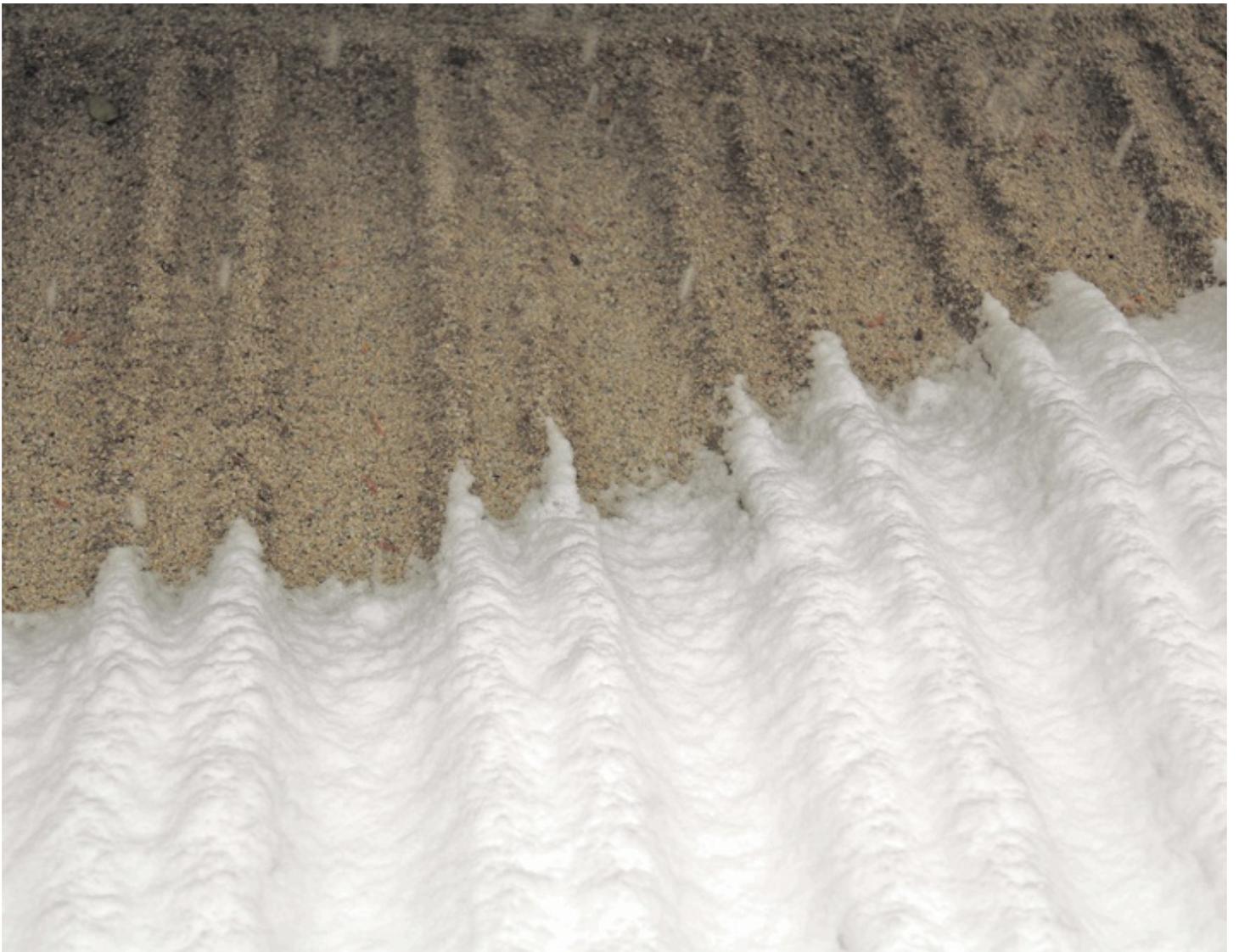
でも、京都も「京」ではなくて京都ですから、「銀閣寺」でいいのでしょう。



この両側は椿です。  
残念ながら咲いている時に来たことはありません。



メレンゲのような、、、ああいかんいかん。  
どうしても甘いものから離れられない。



砂の模様のままに積もるんですね。





借景になっている東山も、すっかり雪の中です。  
ちょっと、長谷川等伯なんかを思いますね。





こちらの松葉は先程のより長い種類のようにです。  
が、細くて繊細で、山に自生しているような  
爪楊枝のように葉の太い松とは種類が違うんだろうな。



お待たせいたしました。





東山から月が上がる。  
二階から見下ろすと、池に月が浮かぶ。  
そういうしつらえでしょうか。





白いプリン。

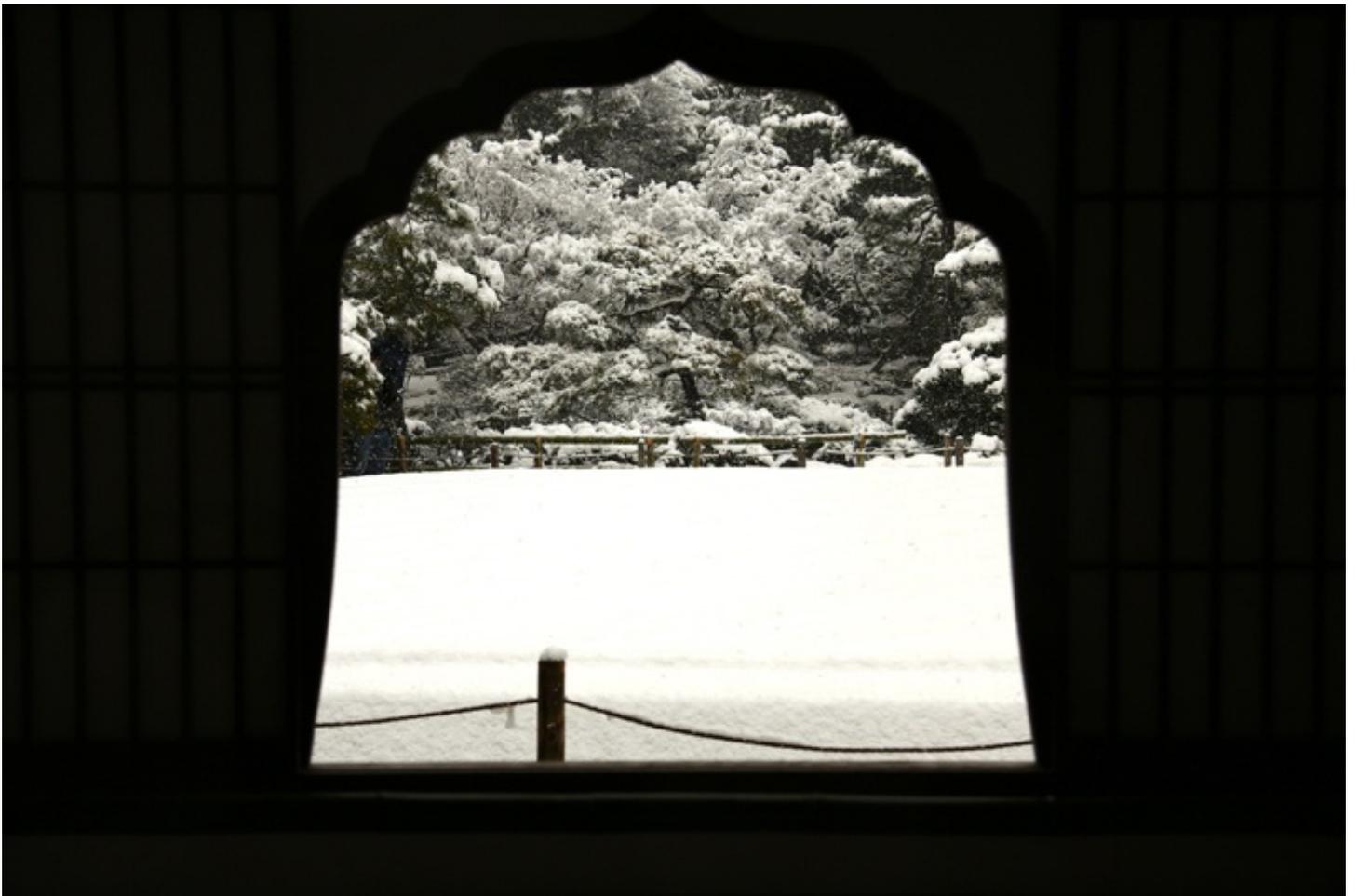
ああ、、、どうしてもスイーツから離れられない。



ほぼ全景。

いかにも枯れた風情ですが、もともとは黒壁で当然のことながら  
奈良平安のお寺と同じように、緑、青、橙を使った  
彩色がしてあったそうです。





境内に入って、本堂に進む道すがら、こういう窓が作られています。  
両側には障子が設けてあって、それを狭めると掛け軸のように見立てることもできる。

上のショットは、かなり粘って極力人を入れない構図にしてみました。

実際はこんなかんじです↓





国宝の東求堂。

、、、国宝だらけですけどね、京都って。





遠景。

年に1度、あるかないかの雪景色ですから、今日遠方からお見えになった方々はラッキーだと思います。修学旅行生も多かった。

左のおじさんは、松に積もった雪を落としています。  
見る方からすれば悪魔の所業ですけど、  
放置すると折れるんでしょうね、枝が。





この、屋根の重ね合わせの美しさって、日本独特の造形ですね。  
雪があると、境目がはっきりとして、余計に綺麗に見えます。



滝ではありません。  
時々雪がどどどって落ちるんです。



散り残った葉が一枚残っています。  
雪にまみれて落ちてきた星のようです。



こんなに美しい風景に出会えるのは、  
一生の間にそう何度も無いだろうな、と思いながら

鼻水が、、、。





山を登ります。上からも見えるんです。  
東山にあるお寺は、上からも眺められるよう  
になっているところが多かったように思います。



背後の白川の家並みもすっかり雪の中です。

銀閣の屋根の稜線が綺麗ですね。

白抜きになっているところが、またいい。

鼻水が、、、。







さて、降りましょう。



おそらくハネヒツジゴケでしょう。  
胞子体が雪の上に突き出しています。  
この、しゅしゅっと立っているところが、可愛くて大好きです。



裏手に回ってきました。

こういう障子を見ると薄くて寒そうですが、  
石やガラスよりも木や紙のほうが熱伝導性が低いので、  
中世ヨーロッパの家屋より、温かいかもしれません。



### 鳳凰のアップ

青銅製のようにです。作った当初は金色に輝いていたんでしょう。

此処から先は出口です。

このあと「哲学の道」を歩いてみようと思います。

私自身は、どっちかというと「雑学の道」ですけど。

写真集

「空と空と、京都の路地は奥に深いです yo」  
「空と空と、京都の路地は奥に深いです mi」  
「からくれないに ni」  
「bleu, jaune, vermillon」  
「H.45」  
「Fly me to Paris I～XIV」  
「祇王 こけのころも」  
「空と雨と6月と」

<http://p.booklog.jp/book/82643>  
<http://p.booklog.jp/book/82160>  
<http://p.booklog.jp/book/81713>  
<http://p.booklog.jp/book/81111>  
<http://p.booklog.jp/book/80229>

<http://p.booklog.jp/book/74864>  
<http://p.booklog.jp/book/74060>

小説

「ネガティブズ2」  
「ネガティブズ」

<http://p.booklog.jp/book/73051>

写真集「空と僕と自転車とni」  
写真集「空と僕と自転車と」  
写真集「空と榕と木蓮と、そして花木木」  
写真集「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」  
写真集「空と雲と、ときどき春の野を行く」  
写真集「空と月と、夜桜デート」  
写真集「空と木と、ときどきの梅暦」  
写真集「空と空と、京都の路地は奥に深いです ni」  
写真集「空と空と、京都の路地は奥に深いです」  
写真集「空と木とたまに月」  
写真集「からくれないに」  
写真集「空と雲と、ときどき月」  
写真集「夢みる桜」

<http://p.booklog.jp/book/72996>  
<http://p.booklog.jp/book/72092>  
<http://p.booklog.jp/book/71344>  
<http://p.booklog.jp/book/70700>  
<http://p.booklog.jp/book/70137>  
<http://p.booklog.jp/book/69415>  
<http://p.booklog.jp/book/68722>  
<http://p.booklog.jp/book/65536>  
<http://p.booklog.jp/book/64153>  
<http://p.booklog.jp/book/62540>  
<http://p.booklog.jp/book/61473>  
<http://p.booklog.jp/book/36294>  
<http://p.booklog.jp/book/45286>

「黄金の麦畑」

1.Largo

<http://p.booklog.jp/book/58662>

第1回 ～ 第41回

「黄昏の玉圍」

イーリアス編

アリンシア編

<http://p.booklog.jp/book/49612>

<http://p.booklog.jp/book/51254>

～ 僕カノシリーズ ～

「僕が彼女に殺された理由 (わけ)」  
「僕と彼女の選択の事由 (わけ)」  
「僕と彼女はそれしか答えを見つけれなかった」  
「僕と彼女はそれ以外にも答えを探し続ける」  
「僕と彼女と複雑な関係者たち」  
「僕と彼女と単純な関係式」  
「僕と彼女と校庭で」  
「僕と彼女と校庭で 夏」  
「僕と彼女のアリア」  
「僕と彼女のインベンション」 (次回)

<http://p.booklog.jp/book/31906>

<http://p.booklog.jp/book/35498>

<http://p.booklog.jp/book/36101>

<http://p.booklog.jp/book/36617>

<http://p.booklog.jp/book/37238>

<http://p.booklog.jp/book/37731>

<http://p.booklog.jp/book/38409>

<http://p.booklog.jp/book/38977>

<http://p.booklog.jp/book/46524>

～ その他 ～

傘がない  
夕暮れの赤ちょうちん  
いもうと  
サマータイム・ブルーズ  
危険なドライビングマジック  
デフラグメント  
インフルエンズ あのころの僕たち  
花舞い、名残り言

<http://p.booklog.jp/book/69798>

<http://p.booklog.jp/book/42024>

<http://p.booklog.jp/book/40794>

<http://p.booklog.jp/book/34054>

<http://p.booklog.jp/book/33630>

<http://p.booklog.jp/book/33116>

<http://p.booklog.jp/book/32752>

<http://p.booklog.jp/book/32187>

詞画集「ただ憶懐を癒けを」

<http://p.booklog.jp/book/34472>

画集「彼と彼女の表紙画集」

<http://p.booklog.jp/book/39345>